

僕と水草

苅部 治 紀

僕は昔から昆虫が好きで色々飼育していましたが、中学一年生の時に、話には聞いた事のあったタイコウチ、ミズカマキリといった水生半翅目の昆虫が売られているのを初めて見ました。それ以後水生昆虫に興味を持ち、中学三年の時には日本の水生半翅目の中では最も分布が限られ貴重なヒメタイコウチという虫を見に名古屋まで旅行しました。生息地は個体数も多くて案外簡単に目的を果たすことができたので、残りの時間を池周辺の昆虫採集にあてました。宮刈池という池でトンボの類を採集しましたがここにはジュンサイの大群落があり（というよりジュンサイの他は殆んど生えていません）、これ以来水草に興味を持ちはじめ、次の日ヒルムシロ、ヒシ、タヌキモ等を見て更に興味は深まりました。

今年は静岡の桶ヶ谷沼という処にベッコウトンボというトンボを観察に行った時に多数の水草を見て、少しずつ持ち帰り栽培をはじめました。桶ヶ谷沼ではヒシ、コウホネ、ジュンサイ、タヌキモ、クロモ、ホザキノフサモ、キクモ等が見られ、7月28日三回目を訪れた時にはオニバスも見つけました。オニバスの種子は9月19日に再び行った時、偶然浮上していたものがあり採集してきましたが、もし1mや2mなどと大きくなってしまったら栽培のしようがないと思い困っていましたが、小水面では葉は30cm位という事なので来春栽培に挑戦しようと思います。私は水生の食虫植物が好きで、特にムジナモ、フサタヌキモ等に興味があります。来春には是非ムジナモの栽培を手掛けてみたいと思っています。

(神奈川県立鶴見高校1年)

○「霧ヶ峰の植物」

(諏訪市教育委員会、昭和57年3月、頒価7,000円)

霧ヶ峰には、日本を代表する高層湿原が存在するが、この本は、その長年にわたる調査結果の集成である。

第I部「霧ヶ峰の植生」(246頁)では、霧ヶ峰の環境について概説したあと、湿原およびその周辺に見られる植物群落を、写真、植生断面図、種組成表などで詳細に記録している。過去の調査結果との比較をとおして、その変遷も明らかにし、最後に、観光客の急増による自然の破壊とその保護の問題にふれている。第II部「霧ヶ峰の植物目録」(113頁)では、地衣類、コケ類も含めた全

植物のリストと、180葉のカラー写真で霧ヶ峰の植物を紹介している。付録として湿原の詳しい植生図と各植物群落の組成表がついている。

照会は、〒392長野県諏訪市高島1-22-30、諏訪市教育委員会社会教育課へ。(角野)

事務局の移転について

前回の会報でもお知らせしましたように、水草研究会の事務局は10月より京都に移っております。入退会や住所変更、会費納入は、全て新事務局の方へお願いします。

〒606京都市左京区北白川追分町

京都大学農学部 応用植物研究室内

水草研究会

振替口座 京都5-16477

なお、会報の編集事務は、従来どおり神戸大学の方でやっております。

会費納入のお願い

昭和58年度会費(2,000円)の納入をお願いします。

送金先 振替口座 京都5-16477

水草研究会

なお、57年度会費が未納になっている方は、あわせて納入願います。

会員移動<新入会>

会員名簿の発行

会長 大 滝 末 男

昭和55年8月、大阪で第2回全国集会在開催された折、水草同好会が水草研究会に改名されました。それと同時に、不肖私が会長に推挙され現在にいたりましたが、この2年間に会員は約100名から230名ほどに達しました。皆様のご協力で、会報も年4回順調に発行され、関係各方面から注目され好評のようでありますことは、慶賀に絶えません。

会員の増加に伴い、本会もようやく軌道にのってきましたが、事務処理の方は私一人の手におえなくなりました。幸いにも去る10月1日から、京都大学農学部応用植物学研究室の別府敏夫・田中修両先生の方でお引受け頂けることになり、このたび移動しましたことは、会報9号で先刻ご承知かと存じますが、昭和58年度からは会費納入などで、お間違いないようお願い申し上げます。

さて、昨年有難いことには、私の都立高校の教職時代から友人であるT先生から、本会に金20万円もの多額の寄付金がございました。このご厚意で、このたび会員名簿を400部作らせて頂きましたことをご報告いたします。

昭和56年6月1日現在の名簿は、会報9号と同封され、すでに皆様のお手許に届いていると存じますが、その後10余名の新入会員がごございます。ご住所その他でご修正を必要とする場合は事務局までご一報願います。なお、お気づきとは存じますが、名簿の中に○印をつけ、純粋の会員ではございませんが会報の贈呈者または交換団体名も記入されています。これらは本会のためにご支援ご協力下さっている方々でございまして。ところで○印の中に、水草にご関心があり、ご造詣もことのほか深い皇太子殿下のお名前を、私の責任でのせて頂きましたところ、過日私よりかなり年輩の東京の一会員から、これは不敬に当るのではないかとのご忠告めいたお電話を頂きました。考えてみれば甚だ軽卒で誤解をまねく結果になったものと、旧帝国海軍士官の私は深く反省させられました。

私は、いままでたびたび東宮御所に招かれ、水草その他について、殿下に身近に接し、ご下問を受け、ご進講申しあげましたりしてまいりましたものですから、つい

慎重さを欠き、無用のご懸念をかけた結果になりましたことをお詫びいたします。名簿発送後約2か月になりますが、他の会員や宮内庁その他から、別になんのご沙汰もございませんことをここに報告いたします。

ご承知のように、天皇陛下・皇太子殿下・義宮殿下はお揃いで生物学のご研究ではご造詣が深いばかりでなく、徹底した自然愛護・平和主義者でございまして。その意味で、私は生物教育に永年携わってきたことを誇りにもつと同時に、皇室に対し、特に親近感をもち、敬愛の念は人一倍強いことを自負している一人であります。

会員名簿発行について、経過の一端をご報告させて頂きましたが、どうぞ会員の皆さん、相互に水草の研究や親睦のために、会員名簿をおおいにご活用下さるようお願い申し上げます。

終わりに際し、改めてご寄付下されたT先生に心から厚く御礼申し上げます。(昭和57年11月30日記)

会員名簿訂正

諸井恒一(東京)住所変更:〒368 埼玉県秩父市上野町10-2-214

須田 理(神奈川)〒229 → 〒228

富士 堯(〃) TEL(04271) → (0427)

尾崎富衛(新潟)勤務先住所 新潟市学校町通2番町5317-1

須賀瑛文(愛知)勤務先:名古屋市立千種中学校

太田敬久(〃)〃: 椋山女学園大学

天野鉄夫(沖縄)住居表示: 373 → 1-1-10

投稿のお願い

会員の皆様からの投稿をお待ちしております。ちょっとした経験や観察の記録なども御気軽に寄せ下さい。

原稿は横書き原稿用紙を用い、図表は別紙に書いて下さい。

原稿の送り先 〒657 神戸市灘区鶴甲1-2-1

神戸大学教養部 角野康郎宛

No.11の発行予定3月(原稿締切 2月20日)

水草研究会会報 No.10 (1982年12月)

[Bulletin of Water Plant Society, Japan]

発行 水草研究会(〒606 京都市左京区北白川追分町
京都大学農学部応用植物学研究室内)

振替口座 京都 5-16477

印刷 中村印刷株式会社(神戸市灘区友田町)